

練馬区独立 70 周年記念誌編さん委員会委嘱式および  
第 1 回練馬区独立 70 周年記念誌編さん委員会会議要録

- 1 日 時 平成 27 年 6 月 30 日（火）13 時 30 分から 14 時 30 分まで
- 2 場 所 練馬区役所本庁舎 19 階 1903 会議室
- 3 出席者 斉藤委員長、高橋委員、漆澤委員、矢島委員、永井委員、区長、副区長、区長室長、企画部長、総務部長、地域文化部長、教育振興部長、区長室副参事、情報公開課長、文化・生涯学習課長

【 次 第 】

- 1 開 会
- 2 委員長・副委員長の決定について
- 3 委員長挨拶
- 4 編さん方針について
- 5 業者選定方法について
- 6 今後のスケジュールについて
- 7 その他
- 8 閉 会

6 発言内容

- (情報公開課長) これから、練馬区独立 70 周年記念誌編さん委員会委嘱式を開催いたします。
- 区長から委嘱状をお渡しいたします。ご起立ください。
- (区長) (各外部委員へ委嘱状を手渡す)
- (情報公開課長) それでは区長から、委員の皆様へご挨拶を申し上げます。
- (区長) 区長の前川です。人間には歴史型か地理型かとありますが、私はどちらかというとも歴史型で、歴史が大好きです。過去を語ることは、歴史を作ることになります。書かれた歴史が史実になるのです。歴史の編さんをお願いすること、つまり過去を語ることは、未来を語ることにもなります。そこで、何よりも大事なことは正確な事実認識です。ただ、正確な事実とは何かということは、実は大変難しい。これをきちんと見極めながら、未来に繋がるものを作っていただきたい。これが今回の 70 周年記念誌の趣旨です。私は区長になるにあたり、「改革ねりま」を掲げました。改革というのは未来に繋がるということで、その一環としてこの記念誌があります。ぜひそれを踏まえ、正確な史実をきちんと書き、同時にその中に未来への芽があるようにしていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。
- (情報公開課長) ありがとうございます。以上をもって委嘱式を終了いたします。

(情報公開課長)

それでは引き続き、第1回練馬区独立70周年記念誌の編さん委員会を開催します。本日は第1回目の編さん委員会ですので、まず編さん委員会の要綱を確認させていただきたいと思います。

4ページの別紙2に、編さん委員会の要綱があります。設置の目的は、70周年記念誌の編さんを行うためです。所掌の事項は、編さん方針の構成、編さん内容等に関して皆様からいただいた意見に基づき、編さん作業を進めていくものです。委員会は練馬区の地域や歴史、文化に関する深い知見を有する学識経験者の皆様のほか、関連する区の職員によって構成されます。そして委員長については、委員のうちから区長の指名によってこれを定めることとなっています。その編さん委員会の下に作業部会を設置し、実際の作業を行ってまいりたいと考えています。

今申し上げたとおり、委員長を決めなければなりません。委員長については、区長の指名によってこれを定めることとなっています。先ほど区長から委員長については齊藤専門調査員にご就任いただければという指示がありました。齊藤委員、いかがでしょうか。

(委員)

はい、お引き受けします。ありがとうございます。

(情報公開課長)

副委員長については、黒田副区长にお願いしたいと思います。

それでは、委員長も決まりましたので、これ以降は齊藤委員長に会の進行をお願いしたいと思います。

(委員長)

それでは、ただいまから委員会を始めさせていただきます。

私は前川区長とは30年来様々な節目で色々な仕事をさせていただいたものですから、昨年4月の練馬区長就任以来、専門調査員という役割を与えられ、練馬区の様々なことに関わってまいりました。ようやくおぼろげに色々覚えてきたところですが、ここにいらっしゃる皆様に比べると、何も知らないと言ってもいい状態です。そういった中で、独立70周年という気高い感じのする記念誌の編さんに携わることになりましたが、ぜひとも皆様と一緒によいものを作っていきたいと思っております。先ほど区長がおっしゃいましたが、いくつか野望というか、せっかく作るのならぜひ読んで面白いものを、という気持ちがあります。公の出す文書や書物というのはだいたい面白いものにあまり出会ったことがありません。もしその年に出た公の発行物で一番面白いものというようなランキングがあったら、そのトップになるくらいの記念誌になるとよいと思います。もちろん事実を曲げて書くということではなく、色々な切り口の事実の加え方によって物事は面白くなるので、そういったものを目指していきたいと思います。それに触れることによって、様々な人の気持ちの中で練馬区に対する発見が起こってくれば、また練馬区と関わりを持つ人に勇気を与えられれば、またこういう町に住んだり、関わって生きていたりすることに価値を感じられる手助けができればと思っております。以上が私の挨拶です。

- (情報公開課長)                    ありがとうございます。この後は、委員の皆様方に一言ずつ自己紹介をしていただきます。
- (副区長)                            副区長です。本日委嘱いたしました3名の方々に、新しい視点で私達と共に動いていただければと思っています。練馬区では既に10年史、20年史・・・と6つの歴史を綴った書がありますが、新しい前川区政の中で、ビジュアルで皆様に楽しんで読んでもらえるものを作っていくということで、ご協力をお願いいたします。
- (委員長)                            ありがとうございます。粛々と委員会が進むのもいいのですが、色々な生の声が出るといいと思います。皆様方が思う、ご自身にとってこれが練馬のベストワンだと思うものを挨拶の中に付け加えていただけますか。まず私が申し上げますと、練馬には23区一の農地が存在することだと思っています。
- (委員)                                高橋葉子です。現在デロイトトーマツコンサルティングという会社に所属しております。もともと東京農業大学で造園を専攻しており、先程の区長のお話にあった、歴史か地理かと言ったら地理型です。ランドスケープを見るという観点でまちづくりの仕事をしてまいりました。今年の4月に転職しましたが、直近では日本交通公社という観光系シンクタンクに9年間在職し、日本各地の地域作りや地域振興のお手伝いをしてまいりました。実は練馬に越してきたのは2年前で、練馬よりむしろ地方の方がわかるというところですか。ちょうど練馬のことを知りたいと思っていた矢先だったため、こういったお話をいただけて本当に嬉しく思っております。
- 練馬のベストワンですが、私の関心が強いのは地形、地質です。石神井公園に住んでおりますが、どうしてあの場所は少し雰囲気が違うのかなということとか、川が流れていることとか、崖線50メートルのエリアに住みたい、というのが引っ越しの条件でした。武蔵野市の井の頭公園付近から崖線をずっと北上し、石神井にたどり着きました。どちらかというとも歴史は素人で、練馬区民としてはまだ2年目ではありますが、分かりやすく楽しくと言った視点で、何かお手伝いできることがあればと思っています。
- (委員)                                武蔵大学の漆澤です。普段は江古田にある、武蔵大学の人文学部におります。歴史型か地理型かという話では、私は典型的な歴史型で、大学から大学院を卒業するまでずっと日本史専攻でした。現在も専門は日本芸能史で、柔らかい内容のものを扱っています。教科書とは異なる角度で、芸能を通して日本の歴史を再発見していこうというようなことをテーマに講義をして、十数年になりました。残念ながら私は練馬区民ではありませんが、職場区民としては十数年練馬区の方に通っており、練馬区の様々な委員会にも携わって今に至っております。練馬区の中のベストワンには色々なものが浮かびましたが、やはり学生街のある江古田です。武蔵野音大、日藝の方にも非常勤で行っており

ますので、そういう学生たちが行き交う、若者たちの活気ある江古田の街をベストワンにしたいと思います。

(委員)

矢島と申します。生まれも育ちも練馬区の石神井です。十代の頃、国木田独歩の「武蔵野」を読んで、果たして実物は練馬区にあるだろうかと歩いてみましたが、全く同じものはありませんでした。もう一時代後ですから。それでも何とか形として残したいと思い、写真を撮り始めました。練馬も年月が経つにつれ都会化していき、畑の隅に一軒、家が建っている、数日後に行ってみるとまた一軒建っているといった感じで次第に畑と森がなくなっていきました。それが残念で、少しでもその風景を残したいと思って写真を撮るようになりました。私の撮ってきた写真は大体そういうものになります。

(委員長)

では、矢島委員の練馬のベストワンは、畑や森ですか。

(委員)

すぐ頭に浮かんだのは、環状何号線でしょうか、新大宮バイパスが通っていますね。

(区長室長)

環状八号線ですね。北町の方ですね。

(委員)

高野台駅の近くですが、南田中側はずっと掘割というか崖でした。そこを子どもたちが歩いていたのです。ずっと遠くの方に、西武線の鉄骨が見える。両方にかぶさっていたわけですね。そんなところもありましたが、今行ってみたらそこを環八が通っていて。そんなのが浮かびましたね。変わったなど。

(委員長)

思い出になってしまったわけですね。ありがとうございます。

(委員)

永井と申します。私は60周年の時に区史の編さんに関わっていたということで、委員として選任されたと認識しております。退職後はシルバー人材センターに約8年間在職しておりました。練馬のベストワンですが、元気な高齢者が一番だと申し上げます。シルバー人材センターの最高齢会員は90歳を超えながらもボランティア活動をしています。練馬区には若い方も当然たくさんいるわけですが、高齢者にも注目していただければと思います。シルバー人材センターの練馬区の会員数は都内でナンバーズリーなので、ナンバーワンではありませんが、元気な点では一番と言えるのではないかと考えております。

(区長室長)

区長室長です。これまで区役所に30年近く勤めていますが、観光や環境、音楽の関係等、役所らしくない仕事にずっと携わっています。60周年当時は商工観光課長だったので様々な事業を組んでいました。どちらかというとモノを残すというよりもイベントを組むのが主な仕事でした。区長室は広聴広報課も所管しており、広報担当の副参事もこの場に参加していますが、こういった機会をいただけたということをお大変ありがたく思っています。練馬のベストワンは色々浮かびますが、特に4月の時期に区内をあちこち歩くと、石神井川沿いなど色々なところで桜並木が見られることから、桜の木を挙げさせていただきたいと思います。

(企画部長)

企画部長です。企画部は区の財政や計画作り等を担当しています。いま区政が非常に大きく変わろうとしている局面なので、各所管から様々な意見を集めながら調整してビジョンを作っていこうとしているところです。今年は区政改革をしっかりと進めるということで、先週、外部の先生方をお迎えして区政改革会議を行いました。その委員の一人のお話をご紹介します。練馬区の旭町にアカオアルミというアルミ鋳造会社があります。その会社は、刻印される前の一円玉を大蔵省に50年以上にわたり納入しているということです。日本中の一円玉はある意味練馬原産ということになります。耳学問の一つにさせていただければと思います。

(総務部長)

総務部長です。情報公開課を所管しています。この委員会では様々な知恵を拝借しながら取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。練馬のベストワンですが、先程委員長が独立について話されましたが、自ら独立を勝ち取った区は23区では練馬だけです。その人たちの伝統を受け継ぐ我々職員や住民が、他の区に負けず一番じゃないかという思いがあり、そうなれるよう頑張ろうと思っています。

(地域文化部長)

地域文化部長です。先ほど委員長から、この記念誌の編さんにあたって、発見があったり興味が湧いたりするというお話がありました。私も地域文化として興味が湧くものができたら、と思っています。練馬のベストワンですが、私は仕事の関係で町会や自治会に行ったり、文化の活動団体のイベントやスポーツイベントで挨拶をしたりしていますが、そうした場で区民の皆様の元気さや力をひしひしと感じており、区民の潜在力が一番だと思っています。今後編さんを通して、また仕事を通して、区民の皆様が力を発揮できるような練馬区にしていければと思っています。

(教育振興部長)

教育振興部長です。先ほど委員長から楽しい夢のある記念誌にしたいという話がありましたが、ぜひ練馬区の小中学生にとっても、読んで楽しいと思える副教材になるような記念誌にしていただければ嬉しいです。そうした視点も踏まえた編さんをお願いしたいと思っています。練馬のベストワンですが、個人的に好きな場所ということで三宝寺池を挙げます。若い頃区内に住んでおり、よく三宝寺池をランニングしていました。青春時代を思い出せる場所として非常に印象深い場所、三宝寺池を挙げたいと思います。

(区長室副参事)

区長室副参事です。区長室で広報戦略を担当しています。私自身も大泉学園に20年以上住んでいますので、編集的な視点に加え、区民目線で、きちんとした総括はもちろん、夢のあるこれからの練馬を表現できればいいと思っています。練馬のベストワンですが、練馬区は東京23区でありながら様々なみどりが豊富であり、その中からみどりを一つというのはなかなか決められませんので、「Yori Dori Midori (より

- どりみどり)」というキーワードで私の紹介とさせていただきます。
- (文化・生涯学習課長) 文化・生涯学習課長です。学芸員として練馬区に入って、非常勤の頃から30数年経ちました。当時30周年誌の編さんを私の師である滝口先生がやっており、それ以降、区史編さんのたびに顔を出させていただいているという状況です。練馬のベストワンは、文化財等も含めてたくさんあります。なかなか表に出ないけれど、実はこんなものもあるといった情報提供をしていけたらいいなと思っています。仕事をしていく中で、練馬は非常に面白いところだなと思っています。石泉と練馬、北町の板橋宿、それから関町の吉祥寺の方、そういう4つの文化圏の人たちが、なぜこんなに一体となって練馬に独立をもたらしたかということ非常に面白く感じています。また地元の方や新しい方と話をしていると、その熱意がひしひしと伝わってきて、そういったところも練馬の特色だと思っています。また、先ほど50メートルラインという話がありましたが、練馬には三宝寺池、井の頭含めて三大湧水があります。ですが、それらは川の右岸側からにしか湧水がない、左岸からの湧水はほとんど少ないというトリビアがあります。理由はおそらく地下何百メートルの世界だと思いますが、そんなことも面白いと思います。
- (情報公開課長) 情報公開課長です。今回独立70周年記念誌編さん委員会の事務局を務めさせていただきます。当区はこのような形で10年ごとに記念誌の編さんをしています。10年の節目に今回のような仕事をさせていただくというのは縁なのかなと思っています。練馬のベストワンですが、私は光が丘のイチョウを挙げます。イチョウが紅葉の時期に黄色く色づき、落葉する風景がとても好きで、それを見ると本当に練馬は美しいところだなと実感します。
- (委員長) ありがとうございました。
- 今、「独立」という言葉が出ましたが、記念誌名にその言葉が入っていることについて、説明をお願いします。
- (情報公開課長) 70年前に、22区が現在の体制で、あるいは区割で特別区としてスタートしました。当時の練馬区は板橋区の中に一つの地域として含まれていましたが、その中で練馬が板橋区から独立しようという自治意識が非常に強い中、独立を勝ち取っていったということを聞いています。そのような経緯で、23区中、23番目にできた区ということで、他の区と比べてひとときわ独立心の強い区だということで理解しています。
- (区長室副参事) 今のお話が独立の経緯ですが、それに少し補足します。実は2年前から、区でもツイッターやフェイスブックを活発に始めてきました。その時、8月1日を「独立」記念日と称してツイッターやフェイスブックで出したところ、若い人たちが「23区で独立ってどういうこと？」「アメリカみたい」と面白がられて、大きな反応があった。こういうエピソードがあります。

(副区長) もともと、東京は35区でした。それを東京都が22年の4月1日に22区にしました。その中で、練馬区の当時の石神井地区と練馬地区の議員さんたちが、板橋区議会の中で、俺たちは独立すると言って、地元から上がっていったんです。それで、板橋区議会の方も、それは独立すべきだと言って応援してくれました。その4か月後の8月1日が独立記念日です。上から作ったのではなく、地元から独立の声が湧き上がって、22区の4か月後に練馬区は生まれたのです。

(委員長) 貴重な区なんですね。

(文化・生涯学習課長) 元々、明治から大正の初期から、そういう独立運動をずっとやってきて、まだかまだかとしびれを切らしたのが昭和22年です。

(委員長) そういう長い蓄積があったのですね。

(文化・生涯学習課長) 練馬区独立期成同盟というのが昭和7年に興りました。板橋区の人たちは議場から全員退出したため、全会一致。練馬区側選出議員のみ出席と議事録にあります。全員が、賛成も反対も言えないものだから退席、という形で応援してくれた。ある程度の年齢層の方は、練馬格差という言葉をもとに、独立という気概の中で、歴代首長を含め、板橋を追い越せ追い抜けという形の街の整備をしてきた。多分、独立というのが、普通に受け入れられていたのでしょうか。それが若い人には繋がっていかず、「何で独立？」という風に面白いキーワードに変わってしまったのでしょうかね。

(区長室副参事) 若い人たちは全くそういう歴史を知らないでしょうからね。

(委員長) 今のような話題も含め、ぜひとも面白い委員会にしていきたいと思っております。では本日の議事に入ります。まず、70周年誌の編さん方針について説明をお願いします。

(情報公開課長)

——70周年誌の編さん方針について

資料に基づき説明——

(委員長) それでは、今の説明について何かご意見、ご質問がありますか。なければ、区長の方針に基づいて決めていますので、この編さん方針を元に進めていきましょう。それでは次に、編さんに携わる業者の選定方法についてです。説明をお願いします。

(情報公開課長)

——業者選定方法について 資料に基づき説明——

(委員長) プロポーザル方式というのは、その会社の考え方や手順等について提案を出してもらい、それを競って、この委員会で決定していくという考え方ですね。それでよいでしょうか。では業者選定については、以上の方法で進めます。つぎに、今後のス

ケジュールです。説明をお願いします。

(情報公開課長)

———今後のスケジュール（案）について

別紙1に基づき説明———

(委員長)

約2年の間で編さんするというのですが、何かこの進め方について、質問や意見等がありますか。

今回は、業者選定をどのように進めるか、やはりこちらからいい仕様書を出さないと、事業者も手を挙げてくれないし頑張ってくれないと思いますので、そのあたりを皆さんと一緒によく工夫したいです。あとは、応募業者のプレゼンテーションをうまく行うことについての議論になってくるとと思いますので、ぜひ色々と知恵を出してください。以上、スケジュールに関しては、現在はこれくらいの枠組みだということを入りながら進めていくということで、差し支えないでしょうか。委員会の回数は、年に3、4回で進めていく予定です。ではスケジュールについては、このように進めたいと思います。本日の内容説明は以上となりますが、他に何かありますか。

(情報公開課長)

この場に他区の周年誌を用意しているので回覧させていただきます。それから、当区で過去に作ってきた周年誌についてもご覧ください。

(委員長)

最近の他区の周年誌も、A4版が多いようです。そうした判の大きさも含め、どうしたら一番楽しく、面白く読んでもらえるか、もちろん内容も含め、検討し議論していきたいと思います。

(情報公開課長)

資料の2ページ下部にロゴを付けています。練馬区の緑と土、そして70周年をモチーフに作成しており、もしよろしければ、今後も資料作成の中で、付けさせていただければと思っています。

(委員長)

役所の文書は楽しみが少ないので、こういったものを付けてはどうでしょうかと提案したら、事務局が早速作ってくださいまして、私としては大変嬉しく思っています。委員会自体をよかったと思えるものにしたいので、委員会の進め方も含め、様々なご提案をお願いいたします。練馬区は和菓子屋さんでも大変有名だということで、次回の委員会では代表的な和菓子を色々とお出ししても楽しいかなと思っています。どのように実現していけるか分かりませんが、そういった楽しい委員会にしたいと考えております。その他ご意見、ご質問等がありますか。

(企画部長)

誰がプロポーザルの選考を行うのでしょうか。

(情報公開課長)

この中から何人かの方をお願いしようと考えています。4～5名の委員で選定しようと考えていますが、具体的な委員の方については、今後検討していきます。

(委員長)

何人かというと、委員全員ではないということですね。

(情報公開課長)

全員ではありません。

- (委員長) ホームページなどで公開して募るという方法を考えているのですね。
- (情報公開課長) はい、そういった方法を想定しております。
- (委員長) ぜひこと、というところに挑戦してもらえようお知らせしたいですね。
- (委員) プロポーザルで行うとの話でしたが、これは価格プラス総合評価という感じで、中身について点数を付けるという意味でよいですか。
- (情報公開課長) 価格プラス内容、例えば具体的な良い提案、優れたアイデアや方法等、そういったことも含めてプレゼンしてもらった上で、委員が評価して決めていきます。
- (区長室副参事) 一般競争入札というのが、価格のコンペという意味ですよ。プロポというのが、価格だけではなく企画の中身も見るということですね。
- (情報公開課長) そういうことです。
- (委員) すると、評価点の付け方で、だいぶ変わってくるということですね。
- (情報公開課長) そうです。評価点の付け方は一定程度区の中でルールがあるので、それに基づいて評価するということです。
- (委員) 分かりました。
- (副区長) どんなプレゼンテーションを求めるのか、それに対してどう評価するか等を、皆さんにご意見いただきたいということだと思います。
- (区長室副参事) オリエンペーパー（条件仕様書）の作り方が全てではないでしょうか。引き出せるかどうか勝負です。皆さんのご意見で、これをどういう方向に持っていくのかというのをきっちりやりたいと思います。
- (委員長) 最近、価格に関しての採点の重みが低くなっていますよね。価格面よりむしろ企画内容や熱意といったものを考慮するので、ぜひそういった点で頑張ってくれるところを見つけ出したいですね。
- では、意見や質問等がなければ今日の委員会は以上となります。事務局から連絡事項があればお願いします。
- (情報公開課長) 次回の編さん委員会は8月24日（月）午後3時30分から1902会議室での開催を予定しています。
- (委員長) では、以上で第一回の編さん委員会を終了いたします。